神様のおもちゃ箱

仁科治

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
神様のおもちゃ箱

【Ｎコード】
Ｎ３５３０Ｌ

【作者名】
仁科治

【あらすじ】
今日は日曜日だった。部屋の掃除を済ませると、ステーションに行った。目的もなく歩き回った。まるで、孤独な男の散歩だ。

?ー6　「黙する彼の思いは」

?ー6　「黙する彼の思いは」

＞最初の手紙６＜

大学生は「この本は私の一番好きな本だ。もう少し上の学校に行ったら読んでごらん」と言って、一冊の小さな本をくれた。のちに文庫本と言われるものだと知ったが、この本の表題にひかれた。書名は言えないが、一八世紀のフランスの思想家だった。

大学生が珍しく僕の家に来たときだ。

僕が問題を解いているときは、傍らで大学生も大きなノートに何かを書いていた。四角の升目がなくて、細い縦線だけのノートだった。そこに細かい文字で大学生は漢字の多い言葉を連ねていた。

『日記』だと言った。

その日、書いたものが気に入らなかったのだろうか、破ると両手をこすり合わせるように丸めた。

いつもなら、そのままポケットにいれるのだが、僕が新しいお茶を持って部屋にはいると、大学生は僕を見ずに転がっている紙を捨ててくださいと言った。

僕は捨てる振りをした。大学生が帰ったあと、もらった文庫本の間にこの『日記』を挟んで大切にしてきた。

「今日は日曜日だった。部屋の掃除を済ませると、ステーションに行った。目的もなく歩き回った。まるで、孤独な男の散歩だ。

古本屋に本を売った。金がなかったわけではない。訣別への序章だ。

一人の女をつけていた。尾行する刑事のような気になっていた。

グラマーで美人だった。連れはいなかった。

しかし、ステーションはひどく込んでいて、二度目に見失ってか

ら会えなかった。もし、私があんな女と結婚し、子どもの二人もつくって一生を終わるとしたら……幸福かもしれない。

しかし、何かが不足しているのだ。それがわからない。

私は、戦前の戦争からも、あの六月の闘争からも確実に免れていた。私が〈無傷〉であることが〈傷〉であることの唯一の根拠……私の存在は、こんな逆説的なものにすぎないのだろうか。

他の都市に行くか。

しかし、考えてもみよ。ここで退屈する奴はどこへ行っても退屈する。時折、激しい感覚に襲われる。そんなとき、二、三の詩句が浮かぶだけだが、それで満足している。なんという怠惰か。

私には〈惨劇〉が必要なのだ。栄光の破滅への〈自死〉が！　〈遺棄死体〉たることが必要なのだ。

相変わらずヘラヘラと生きている。あれほど衝撃を受けた詩人、そして思想家の〈意味する、あるいはしようとしているもの〉がどれほど内在化されたか。そして、わが頭に当てられたピストルはモデルガンであったという笑い話。このいまも、みな戦っているはずだ。あの大きな欺瞞と。しかし、……。

〈厳寒の地に羊を飼って一〇〇〇年、そして黙する彼の思いは〉。これは、だれの言葉だったか、もう忘れた。

私は、このまま老いるのか？」

あなたに手紙を書いている僕は、あと数年もすれば六〇歳となる。あなたも同じことだろう。

なぜ、僕があなたにこんな手紙を出そうと思ったのか、あなたにとっては不愉快かもしれない。安全な生活にいるならより迷惑なことだろう。しかし、あなたが逃げてしまってはもう戻れない選択になるのだ。

僕は、大学生が死んだということの意味がわからなかった。

「もう会えないということだよ」と義母は言った。

「お別れをしなさい」
翌日、義母に連れられて大学生の家に行った。喪服を着た何人かの人に頭を下げて焼香をすませた。
正面に白い布で覆われた棺が置かれていた。その端に小窓があって、そこに大学生の顔があった。僕はじっと見つめていた。
大学生の顔は口や耳に白いわたが詰められていた。
「大丈夫だよ」。どこからか現れて、優しい語り口で僕に話しかけてくるような気がしていた。
祖父母のもとに帰る数日まで、僕は待っていた。しかし、大学生は僕の前に老婆の妖精たちを連れて姿を現さなかった。
だが、僕は帰ってからもっと強い衝撃に遭うことになった。

最初の手紙はここまでだった。おそらく次がくるのだと推測できた。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n3530l/

神様のおもちゃ箱

2011年10月7日03時08分発行